

第
五

B-0328

0169

二
五) 昭和七年十月作成
「ロガノ」協定説明書ノ原稿

参考

B-0328

0100

第 一 章 「ローザンヌ」協定ニ基ク獨逸ノ債務
 「ヤング」案ニ基キ千九百三十二年（昭和七年）七月一日以降ニ於
 テ獨逸ノ支拂フヘキ年金額額ハ千六十三億八千萬「ライヒスマルク」
 ニシテ其ノ千九百三十二年（昭和七年）六月ニ於ケル現在價額ハ約
 三百五十五億「ライヒスマルク」ニ當ル處今各債權國ノ受取分ヲ示
 セハ次ノ如シ

債權國	一九三二年六月ニ於ケル現在價額	
	金額（百萬「マルク」）	割合（%）
佛 國	一、九一、九〇八	五、五
英 國	七、四三、四九	二、二
伊 太 利	四、五八、三二	一、三
白 耳 義	一、〇〇、七〇〇	二、九
「ルーマニア」	四、四、八	一、三
合 計	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇

外 務 省

債權國	一九三二年六月ニ於ケル現在價額	
	金額（百萬「マルク」）	割合（%）
「ユーゴスラヴィア」	五、五九、一	五、五
希 臘	四、八四、九	四、八
「ポルトガル」	六、六三、四	六、六
日 本	四、六八、一	四、六
「ポーランド」	一、五八、八	一、五
合 計	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇

「パリ」専門委員會報告書添附ノ特別覺書ニ依ルニ「ヤング」案年金額額千七百七億「ライヒスマルク」中約四分ノ三即チ八百四十五億「ライヒスマルク」ハ所謂純對外支拂ノ名目ノ下ニ聯合國間戰債支拂ニ充當セラルヘキコトト爲リ居レリ「ヤング」案年金額ノ組立ハ此ノ見地ニ基クモノニシテ即チ純賠償ハ唯千九百六十六年迄支拂フヲ以テ足ルニ反シ純對外支拂ハ千九百八十八年迄繼續スヘキコトト爲レリ而シテ「フリーヴァー」年度終了後千九百八十八年迄ニ支拂フヘカ

外 務 省

リン年金總額千六十三億八千萬「ライヒスマルク」ノ中八百二十一
 億五千萬「ライヒスマルク」即チ約七七%ハ聯合國間戰債支拂ヒニ
 使用セラレ殘部ハ債權諸國ニ純賠償トシテ歸屬スヘカリシモノナリ
 今千九百三十二年七月一日以降ニ於テ各債權國ノ受取ルヘカリシ金
 額ヲ純對外支拂ト純賠償トニ區別シテ示セハ次ノ如シ(單位百萬「
 マルク」)

は(一)

外務省

債權國	純對外支拂		純賠償		合計	
	年金合計	一九三二年六月三於ケル現在價額	年金合計	一九三二年六月三於ケル現在價額	年金合計	一九三二年六月三於ケル現在價額
佛 國	四二七、四八	二七、六六	一四九、九五	六四、二八	五七七、四三	一三二、九八
英 國	一八三、〇〇	六五、九七	一九八、四七	八五、七九	三八一、四七	一五四、〇七
伊 太 利	一四九、五八	三七、三一	一五五、六五	五五、六一	三〇五、二三	一〇八、〇九
白 耳 義	二八八、九四	八九、八七	一五三、一三	一一〇、三三	四四二、〇七	一〇〇、七〇
「ルーマニア」	一六四、七二	三八、九六	一五七、七五	五八、三三	三二二、四七	四四、七八
「ユーゴスラヴィヤ」	一一八、六七	三二、〇二	一四〇、四四	四六、三三	二五九、一一	一三八、七五
希臘	五四、三九	一七、八一	五〇、四四	一五、三九	一〇四、八三	一四、五二
「ポルトガル」	四四、六九	一三、八九	二一、三五	九、四三	六六、〇四	一四、五二
日 本	〇	〇	四、八一	二、九〇	四、八一	二、〇五
「ポーランド」	〇	〇	一、七八	六、六九	一、七八	二〇、五九
合 計	一、一四七、九六	二四〇、九〇	一、一四七、九六	三〇七、九八	二、二九五、九二	六四八、九六

外務省

B-0328

尙年支拂額十七億乃至二十六億「ライヒスマルク」中六億千二百萬
「ライヒスマルク」ハ猶豫スヘカラサル無條件年金ニ屬シ殘額十一
億乃至二十億「ライヒスマルク」ハ猶豫シ得ヘキ條件附年金ナリキ

外務省

「ロイヤル」協定ニ基ク獨逸ノ債務

「ロイヤル」協定ハ「ヤング」案ニ基ク獨逸ノ總テノ債務ヲ撤廢
シタコト上記ノ如シ右ハ單ニ獨逸聯邦ノ豫算ニ依ル支拂ノ清減ヲ意
味スルノミナラズ(一)年額六億六千萬「ライヒスマルク」(賠償税ノ
形式ニ於テ)ニ達スル獨逸鐵道會社ノ負擔ヲ除去シ(二)關稅、煙草稅
麥酒稅及火酒專賣ヨリ生スル收入ハ最早賠償債務ノ擔保タルヲ要セ
サルコトト爲ルヲ以テ此ノ意味ニ於テ獨逸財政主權ハ完全ニ恢復セ
ラルベク(三)年金信託勸定ノ平均預金殘高ノ五〇%ニ當ル無利息預金
(最高一億「ライヒスマルク」)タルヘク千九百三十二年六月三十日
現在ニ於ケル金額ハ六千二百三十萬「ライヒスマルク」ニ達セリ(一)
千九百六十六年三月三十一日ニ至ル迄ノ期間内國際決済銀行ニ維
持スヘキ獨逸政府ノ義務モ消滅シ(二)獨逸銀行法及獨逸鐵道法ニ關ス
ル拘束(「ヘーグ」協定第五附屬書ノ二)ニ依ルニ獨逸銀行法ノ實質
的改正案ハ國際決済銀行理事會ニ提出スルヲ要シ同理事會ハ之ニ對

外務省

B-0328

シ異議ヲ提起スルヲ得ヘク同様獨逸鐵道法ノ改正モ常設委員會（四名ノ委員中二名ハ債權國政府ノ代表者ナリ）ノ決定ヲ要スルコトト爲リ居レリ（第六附屬書ノ二参照）ヲ解消セリ加之伍「ローザンヌ」協定ニ依ル三十億「ライヒスマルク」ノ支拂額中ニハ「フリーヴア」猶豫年金ノ支拂ニ關スル千九百三十一年八月十一日ノ「ロンドン」議定書及之ガ補足議定書ニ依リテ獨逸ノ引受タル債務ヲモ包含シ居レリ因ニ右猶豫額約十六億「ライヒスマルク」（四歩利附）ハ千九百三十三年七月一日以降毎年一億八千八百六十二萬「ライヒスマルク」宛十年間ニ償還セラルベカリシモノニシテ其ノ各債權國割當額ヲ示セバ次ノ如キモノナリ（單位百萬「マルク」）

元本額	條件年金	無條件年金	合計	純對外支拂	純對外支拂	賠償	賠償
10,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	2,000,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	500,000,000	500,000,000
佛國	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
英國	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
伊太利	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
白耳義	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
「ルーマニア」	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
「ユーゴスラヴィア」	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
希臘	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
「ポルトガル」	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
日本	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
「ポーランド」	5,000,000,000	5,000,000,000	10,000,000,000	7,500,000,000	7,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
合計	100,000,000,000	100,000,000,000	200,000,000,000	150,000,000,000	150,000,000,000	50,000,000,000	50,000,000,000

外務省

英 國
伊 太 利
白 耳 義
「ルーマニア」
「ユーゴスラヴィア」
希臘
「ポルトガル」
日 本
「ポーランド」
合 計

次ニ「ローザンヌ」協定ニ依リテ獨逸側ノ引受ケタル義務ハ國際決済銀行ニ對シ三十億「ライヒスマルク」五分利附債券ヲ交付スルニ在リ尤モ獨逸ノ財政及經濟ニ休養期間ヲ與フル爲國際決済銀行ニ於テハ此ノ債券ノ全部又ハ一部ノ一般賣出ヲ「ローザンヌ」協定調

外務省

ノ日ヨリ三年經過後即チ千九百三十五年七月八日以後ニ重リテ始メ
テ實行スルヲ得ヘシ又獨逸ノ信用恢復ヲ考慮シ此ノ債券ノ發行價格
ハ原則トシテ九〇%以下タルヲ得サルモ右協定調印後五年即チ千九
百三十七年七月八日以後ニ於テ國際決濟銀行カ他ノ國債相場ハ九〇
%以下ナルニ拘ラズ獨逸政府ノ信用既ニ恢復セリトノ意見ニ到達セ
ル場合ニハ新債券ハ國際決濟銀行理事會ノ決定(同決定ハ「ライヒ
スバンク」總裁ノ意見ヲ徵シタル後三分ノ二ノ多數ヲ以テ爲サザル
ベカラズ)ニ依リテ九〇%以下ノ相場ニテ發行セラルルヲ得ヘシ他
方額面價格ニ依ル賣出ノ可能ナル場合ニハ獨逸政府ノ提議ニ依リ利
率ハ之ヲ五分以下ニ引下クルヲ得尙獨逸政府ハ未ダ賣出サレザル債
券ノ全部又ハ一部ヲ何時タリトモ額面價格ニテ買戻ス權利ヲ有シ又
千九百三十五年七月八日以後十二年間ニ賣出サレザル債券ハ自然消
滅ニ歸スヘキヲ以テ其ノ限リニ於テ獨逸ハ債務ヲ免ルルコトト爲ル
ヘシ

外務省

右ノ次第ニテ三十億「ライヒスマルク」ノ債券ノ交付ト共ニ獨逸ハ
不確定債務ヲ負フコトト爲リ其ノ實際上ノ負擔額ハ結局獨逸ノ經濟
及信用ノ將來ニ於ケル發展如何ニ懸ル所多シ尤モ債券不發行ノ場合
債權國側ノ被ルヘキ損失ヲ或程度迄緩和スル爲「ローザンヌ」協定
批准後獨逸ノ國債又ハ獨逸政府ノ保證アル債券(期限一年未滿ノモ
ノヲ除ク)カ外國ニ於テ發行セラルル場合ニハ獨逸政府ハ此等債務
ノ純手取額ノ三分ノ一ヲ以テ國際決濟銀行ニ殘留スル前記債券ヲ買
戻サザルベカラズ
三十億「ライヒスマルク」ノ債券發行ニ依リテ生スル獨逸ノ財政的
負擔ハ特別ノ賣出規定存在ノ結果今直ニ明確ナル數字ヲ以テ説明ス
ルヲ得サルモ獨逸ニトリテ最有利ナル場合ハ同債券カ十五年内ニ全
然賣出サレズ且獨逸政府カ右期間中何等ノ外債ヲモ募集セザル場合
ニシテ此ノ場合ニハ國際決濟銀行ニ交付セル債券ハ全ク價格ヲ發生
セズシテ終ルコトト爲ルガ斯カル場合ヲ想像スルコトハ先ヅ不可能

外務省

B-0328

ト云フベシ

右ニ反シ總テノ債券カ賣出サルルモノト假定スレバ債權國側ニトリ
 最有利ナル場合ハ三十億「ライヒスマルク」ノ債權全部カ三年ノ休
 養期間經過後直ニ賣出サルル場合ニシテ此ノ場合ニハ三十億「ライ
 ヒスマルク」ノ現在價格ハ二十五億九千二百萬「ライヒスマルク」
 ト爲ル若シ債券全部カ十五年ノ期間ノ最終日ニ賣出サルル他ノ極端
 ナル場合ニ於テハ其ノ現在價格ハ十四億四千三百萬「ライヒスマル
 ク」ト爲ル次ニ發行債券ハ五分利附ニテ毎年元本ノ一%宛償還セラ
 ルベキヲ以テ其ノ償還期限ハ三十七年ト爲ルベク各年ニ於ケル債券
 元利支拂最高額ハ獨逸ニ最不利ナル場合即チ債券總部ノ賣出サレ
 ル場合ニハ一億八千萬「ライヒスマルク」ト爲ル

(一) 總テノ債券カ三年ノ

一九三三年七月 ニ於ケル現在 價格 (百萬マルク) 二五九三	最高支拂 額 (百萬マルク) 一八〇	年金合計 期 (百萬マルク) 六六一一	限 一九七三年
--	-----------------------------	------------------------------	------------

外務省

7.11

休養期間經過直後ニ
 發行セララルル場合
 (二) 總テノ債券カ十五年
 ノ期間ノ最終日ニ發
 行セララルル場合

一四四三	一八〇	六六一一	一九八四年
------	-----	------	-------

は(1)

外務省

7.11

「ローザンヌ」協定ニ依ル債務以外ニ獨逸ノ負擔セル政治的債務
「ローザンヌ」協定第二條ニ依ル同協定ハ「ヘーグ」協定ヨリ生ス
ル總テノ債務ヲ廢止スルモノナルモ此ノ規定ハ千九百二十年ノ七分
利附「ドーズ」公債及千九百三十年ノ五分半利附「ヤング」公債ニ
對シテハ適用セラレス「ローザンヌ」協定第七條ノ獨逸カ千九百
二十四年募集セル「ドーズ」公債九億九千萬「ライヒスマルク」ハ
千九百四十九年十月十五日迄存續シ千九百三十二年七月一日乃至千
九百三十三年六月三十日間ニ於ケル元利支拂額ハ八千五百二十萬
「ライヒスマルク」其ノ後年々百三十萬「ライヒスマルク」宛減少ス
「ヤング」公債ハ千九百三十年六月三億五千百萬弗ノ額面價格ニ於
テ公募セラレ其ノ三分ノ二即チ九億八千二百萬「ライヒスマルク」
ハ賠償債務商業化ノ爲ニ使用セラレタルモノナルカ此ノ賠償部分ニ
對スル獨逸ノ支拂額ハ毎年六千三百八十萬「ライヒスマルク」ニシ
テ千九百六十五年六月一日ヲ以テ終了ス

外務省

右「ドーズ」及「ヤング」兩公債ノ外獨逸ハ白耳義及合衆國トノ特
別協定ニ基テ支拂ヲ爲ササルカラス
獨逸ハ白耳義ニ對シテハ戰爭終熄當時同國ニ流通シ居タル「マルク」
紙幣償却ニ關スル千九百二十九年七月十三日ノ獨白「マルク」協定
ニ基テ支拂義務ヲ有ス此ノ協定ニ依ル支拂額ハ千九百三十二年七月
一日乃至千九百三十三年六月三十日間ニ於テハ二千二百六十萬「ラ
イヒスマルク」ニシテ千九百三十三年乃至三十四年度以降ニ於テハ
二千六百萬「ライヒスマルク」ト九百三十萬「ライヒスマルク」ト
ノ中間ニ存シ千九百三十六年三月三十一日ヲ以テ終ル「マルク」協
定ニ基テ獨逸ノ支拂年金中「ルクサンブルグ」ハ千九百二十一年ノ
白耳義「ルクセンブルグ」經濟條約第二十三條ニ依リ約三ノ割當
ヲ受クルコトト爲リ居レリ
千九百二十九年十二月二十八日ノ獨米債務協定ニ依ル獨逸ノ對米債
務ハ第一ニ「ライン」地方占領費アリ其ノ年支拂額千六百四十萬「

外務省

B-0328

ライヒスマルク」乃至三千五百三十萬「ライヒスマルク」ニシテ千九百六十六年三月三十一日迄存續スヘク「フリーヴァー」年度中延期セラレタル金額ハ千九百三十三年七月一日ヨリ千九百四十三年六月三十日迄ノ間ニ於テ毎年三百十萬「ライヒスマルク」宛償還セサルヘカラス右獨米債務協定ニ基ク獨逸ノ第二ノ支拂義務ハ千九百二十二年八月二十日ノ協定ニ依リテ任命セラレタル獨米混合委員會ノ決定ニ基クモノニシテ其ノ年支拂額ハ四千八十萬「ライヒスマルク」ナリ而シテ右支拂ハ最長限度トシテ千九百八十一年三月三十一日迄繼續スヘキ筈ナルモ其ノ最終的期限ハ結局米國ノ損害賠償要求權ニ關スル最後ノ決定如何ニ懸レリ

今左ニ「ローザンヌ」協定ニ依ルモノノ外獨逸ノ履行スヘキ總テノ債務ニ付千九百三十三年六月十五日ニ於ケル現在價格及其ノ年支拂額等ヲ示セハ左ノ如シ

外務省

(單位百萬「マルク」)

期 限	「ドーゼヤング」公債		「フリーヤ」年度延期合計		對 米 支 拂
	公債	公債	混合債權	占領軍費	
一九四九年十月十五日	八五二	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四五年六月一日	八三九	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四六年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四八年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四九年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四三年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四四年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四五年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四六年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四七年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四八年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
一九四九年三月三十一日	八三六	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
各年六月末	七八七	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
年支拂額	七八七	六三八	四〇八	〇	一、三九〇
殘存資本額	七六四	九五二	三二一	五八三	四、二二九
七六四	九五二	三二一	五八三	四、二二九	四、二二九

外務省

一九三九	七 七 四	六 三 八	二 六 〇	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四〇	七 六 一	六 三 八	二 六 〇	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四一	七 五 九	六 三 八	二 五 五	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四二	七 五 五	六 三 八	二 五 一	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四三	七 五 三	六 三 八	二 四 六	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四四	七 五 〇	六 三 八	二 四 一	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四五	六 九 七	六 三 八	二 三 六	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四六	六 八 四	六 三 八	二 三 一	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四七	六 七 一	六 三 八	二 二 六	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四八	六 五 八	六 三 八	二 二 一	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九四九	六 四 五	六 三 八	二 一 六	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
一九五〇	六 三 二	六 三 八	二 一 一	四 〇 八	一 六 四	一 〇 四 七
以上合計	二 一 九 三 六	二 一 八 八	五 九 六 六	七 三 四 四	四 〇 七 四	一 〇 四 七

外務省

以後支拂	〇	九	四	一	四	六	五	一	二	六	四	八	五	六	四	八	〇	二	七	一	七	五	
残額	〇	九	四	一	四	六	五	一	二	六	四	八	五	六	四	八	〇	二	七	一	七	五	
年金總額	三	九	三	六	二	〇	九	〇	一	九	九	二	九	九	七	三	二	〇	六	六	九	二	九

は(2)

右表ニ依ルニ獨逸ノ年支拂額ハ三年ノ休養期間中ハ二億三千七百七十萬「ライヒスマルク」乃至二億三千四百九十萬「ライヒスマルク」ニシテ其ノ後ノ十二年間ニ於テ二億三千二百六十一萬「ライヒスマルク」ヨリ二億一千七百十萬「ライヒスマルク」ニ減シ千九百四十九年「ドーズ」公債消滅後ニ於テハ一億五千萬「ライヒスマルク」ト爲ル

(註、本章ニ掲ケラレタル數字ハ獨逸國統計局機關紙 *Wirtschaft und Statistik* ニ據レリ)

外務省

賠償問題

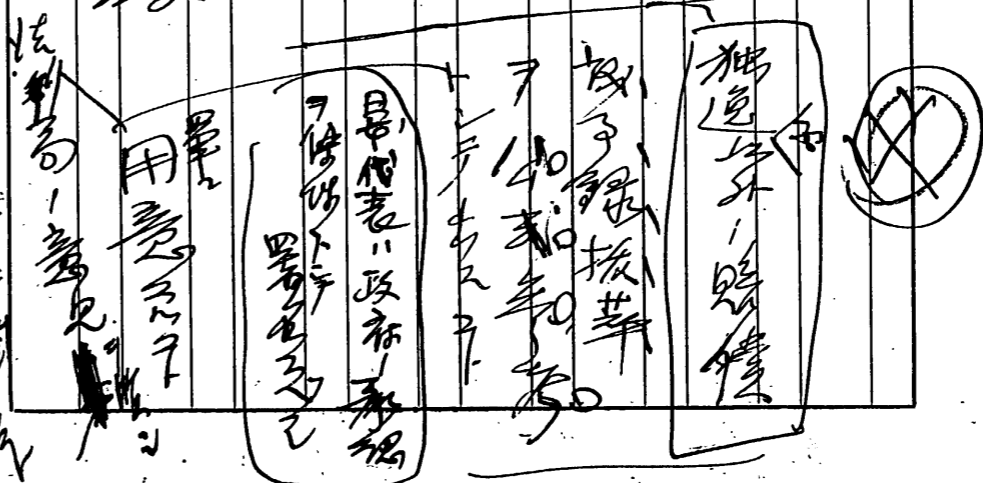
ad ref. - 賠償問題 裁可

独2号以外、賠償、規定未定
~~独2号~~ 独報

新規定案、独2号、其内容、
 提出、入可、可

但、現在、→ 独2号、賠償、
 1、独2号、賠償、
 第2号

独2号、賠償、
 第2号



2-1-2

戦債ト賠償トノ關係ニ關スル英、佛、伊、白
四國間ノ申合

新部知部
寄三矢部知部

B-0328

0181

Procès-verbal.

THE Lausanne Agreement will not come into final effect until after ratification as provided for in the Agreement. So far as the Creditor Governments on whose behalf this Procès-Verbal is initialled are concerned, ratification will not be effected until a satisfactory settlement has been reached between them and their own creditors. It will be open to them to explain the position to their respective Parliaments, but no specific reference to it will appear in the text of the agreement with Germany. Subsequently, if a satisfactory settlement about their own debts is reached, the aforesaid Creditor Governments will ratify and the agreement with Germany will come into full effect. But if no such settlement can be obtained, the agreement with Germany will not be ratified; a new situation will have arisen and the Governments interested will have to consult together as to what should be done. In that event, the legal position, as between all the Governments, would revert to that which existed before the Hoover Moratorium.

The German Government will be notified of this arrangement.

On behalf of Belgium:

J. R.

On behalf of Great Britain:

N. C.

On

Vertical Japanese text, likely a translation or commentary, located on the right side of the document. It includes the date '千九百三十三年五月二日' (May 2, 1933).

B-0328

0184

On behalf of France:

E. H.

On behalf of Italy:

A. M.

July 2, 1932.

Process-verbal.

THE Japanese Agreement will not come into final effect until after ratification as provided for in the Agreement. So far as the Greater Governments on whose behalf this Process-Verbal is initiated are concerned, ratification will not be effected until a satisfactory settlement has been reached between them and their own creditors. It will be open to them to explain the position to their respective Parliaments, but no specific reference to it will appear in the text of the agreement with Germany. Independently, if a satisfactory settlement about their own debts is reached, the respective Greater Governments will ratify and the agreement with Germany will come into effect. But if no such settlement can be obtained, the agreement with Germany will not be ratified; a new attitude will have arisen and the Governments interested will have to consult together as to what should be done. In that event, the legal position, as between all the Governments, would revert to that which existed before the Hoover Memorandum.

The German Government will be notified of this arrangement

On behalf of Belgium:

J. K.

On behalf of Great Britain:

A. G.

On

